

どこでも役立つ、自立した研究者になるための  
トランスファラブルスキル**RISE**の各項目とその内容

**RISE**には、以下のようなスキルが含まれています。

- 1) 大学で学ぶべき基本的なスキルで、企業や研究機関等でも役立つスキル。
- 2) 企業や研究機関等で研究を進めるにあたって特に重要視されるスキル。大学との違いを感得してほしいスキル。
- 3) 研究成果を社会実装するためのスキル。

これらのスキルは、洞察（将来を見通す）、反省（状況を様々な視点から客観的に見直す）、行動、これらの繰り返しにより、日々更新すべきものです。

研究遂行に関するスキル <i>R</i> esearch governance and organisation	知識・知的能力 <i>I</i> ntelligence and knowledge	他者や社会との関係に係るスキル <i>S</i> ocial relationship	自己開発に係るスキル <i>E</i> ffectiveness
R-1 安全、コンプライアンス意識 および情報管理技術	I-1 理論的知識、情報収集力、数学的応用力 語学力・文章読解力	S-1 チームワーク力、他者との協働	E-1 研究への取り組み姿勢
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康、安全、法令遵守・研究倫理等の重要性が理解できる</li> <li>研究者としての情報管理 技術、知的財産権、秘密保持などの契約関係について理解し、高い意識を持つことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決に必要な基礎知識を有し、必要な情報を収集することができる</li> <li>数理学の知識をベースに数値解析できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームの戦略・目標、役割分担を理解し、協働できる</li> <li>他のメンバーの強み・弱みを理解し、意思疎通を図ることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>強みと弱みを自覚して、研究に活かすことができる</li> <li>熱意、持続力・忍耐力、責任感、主体性、専門家としての誠実さを持って行動できる</li> </ul>
R-2 研究の基本的な進め方	I-2 分析/統合力、論理的思考力、問題解決力	S-2 コミュニケーション能力	E-2 自己管理、時間管理
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究の目的、背景を理解して、課題設定を行い、研究を取り巻く諸事の要因に配慮しながら研究計画を立てることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決力、論理的思考、分析・統合力等を駆使して研究・開発を遂行できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究遂行にあたって研究室内外および異分野の関係者の理解を得ることができる</li> <li>様々な情報伝達手段を用いて十分な議論ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的を達成するために明確な研究計画を立て、効果的な時間管理を行える</li> <li>ストレスマネジメントとワークライフバランスを考慮して自己管理ができる</li> </ul>
R-3 資金管理・調達	I-3 洞察力 探究心 議論展開力	S-3 研究結果の社会への還元	E-3 キャリア開発 専門能力開発
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究を進める際、および、事業を行うにあたっての資金管理・調達の仕組み、実態の理解ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの経験を活かし、新しいアイデアと裏付けとなる根拠を提示して、社会にインパクトを与える、画期的/創造的な議論ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究結果を社会に実装するプロセスを理解できる</li> <li>社会的利益を生み出す可能性のある新製品開発や既存の研究の新しい活用法について考案・発案することができる</li> <li>グローバル展開の重要性が理解できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門的能力の持続的開発が必要であることを認識している</li> <li>経験を分析的に振り返り、自己改革のサイクルを追求する</li> <li>キャリアプランを描くことができる</li> <li>幅広い研究コミュニティで、信頼関係に基づく協力的なネットワークを構築する</li> </ul>